

がんばってます神戸の農業 NO. 9 神出町(上北古編)

多彩な農産物の生産が行われ、多様な農村地域がある神戸市の農業委員の地元を順次紹介していきます。

今回は西区の神出町とそこで頑張っている農家中井知広さんをご紹介します。

神出町

西区の北西部に位置し、北は三木市、西は加古郡稲美町に接し、海拔100mの台地を形成しており、そのほぼ中心に雌岡山(249m)と東方に雄岡山(241m)がそびえ、雌岡山の山頂には古くから信仰の対象となってきた神出神社があります。

神出は明治時代になって明石郡に組み入れられ、昭和22年に神出町として神戸市に編入されました。

他にも、広大な平野部を生かして、水稻、トマト等の栽培が盛んに行われています。

また、酪農、肉牛経営も行われており、多角的な農業経営が行われています。

○がんばる農業者(中井 知広(ともひろ)さん 53歳)

1. 中井さんは両親と一緒に農業をされており、今年で4年目になります。主に水稻1.7ha、露地栽培(キャベツ、ブロッコリーなど)とビニールハウス8棟による施設栽培(トマト、スイートコーンなど)を合わせて80aを栽培されている他、原木3,000本によるシイタケ栽培や西洋ミツバチ8群の飼育に取り組まれています。

また、畦畔に岩垂草を植えることで、雑草を抑制するとともに蜜原としての機能もあり、いろいろな面で工夫されています。

2. 中井さん曰く、農業は、作物を栽培しながら自由な時間が取れる事や自分の作った農産物を食べられた方が「美味しい」と言って頂く事で、励みにもなり、次の活力が湧いてくるらしいです。

また、ミツバチが近所の農作物の受粉を行うことで、より良い生活環境を作り、地域でも大変喜ばれているとのことでした。

3. 今後も複合経営を目指し、多品目な農業を行うとともに、現在は、使用済みのシイタケのホダ木を堆肥に利用するなど、循環型農業を実践されています。
4. 中井さん自身、農業はやはり体力勝負なので、自己管理をしっかり行い、体力の維持に努められています。今後は農産物の単収を上げるとともに、生産経費を抑え儲かる農業を目指す一方で、夢は、「お金儲けより、人と人との繋がりを大切にして人間力を養っていきたい。」と話される中井さんの姿はやる気に満ちていました。



中井 知広さん

○大歳神社

古くから五穀の守り神として北古新田村の安寧を守ってきた大切な神社で秋祭りの宵宮では太鼓が神社の周りを3回練り回り、神社に奉仕します。

また、村中の安全息災を願って作られた「燈明番」の幡は現在も継続しており、各家に燈明五穀の守り神として回って来たときにお燈明を灯してお参りします。(『双嶺の郷』より引用)

更に大歳神社の敷地内には享保の頃(1700年代)に観音様のご利益を願って建設された「観音堂」があります。

(『神出むかし物語』より引用)



写真 燈明番の幡



写真 大歳神社

○半鐘

大正の始めに建てられ、100年近く上北古の安全を見守り続けてきました。この半鐘(火の見櫓)は鼓型であり、上北古のランドマークとして、いつまでも引き継ぎたい大切な宝物です。



写真 上北古のランドマーク